

きらり

酒田市農業委員会報 No.43



「庄内の夏の代表」 ～袖浦地区～

特集

酒田農業の未来を拓く女性の力 (2、3面)

ーさかた女流地域づくり塾の取り組みー

耕作放棄地を活用し地域を元気に (4面)

農業委員会活動レポート (5面)

キラリな女性 かがやく女性農業者 (6面)

若手農業者リレーエッセー かぜ

農業一筋 短信 (7面)

進む農業の法人化 ー地域での取り組みー (8面)

28年 夏季号

特集

女流

酒田農業の未来を拓く女性の力

さかた女流地域づくり塾の取り組み



平成27年6月22日、女性農業者や主婦、会社員、学生など合わせて約20人の女性が酒田市総合文化センターに集まりました。華やかながらもどこか凜とした雰囲気漂うその会場では、「さかた女流地域づくり塾」（以下「女流塾」）の開塾式が行われていました。今回は、女流塾とそこで生き生きと活動する女性を紹介し、将来の酒田農業を考える参考の一つにしてもらえればと思います。



開塾式

設立の目的

女流塾は、少子高齢化により就農者の確保が課題である中、就農

人口の約半数を占める女性農業者に焦点を当て、女性ならではの感性、行動力、ネットワーク力を生かした地域農業をリードする女性農業者の育成と、地域活性化を目的に開塾しました。塾長には本市農業のアドバイザーである今村奈良臣東京大学名誉教授、座長には東北公益文科大学の中原浩子特任講師を迎え、女流塾の活動を強力に支えています。

多様なメンバー構成

塾生は、農業者だけでなく会社員や自営業者、学生から主婦に至るまでさまざまな立場の女性で構



定例塾のひとコマ



酒田の美味しいものを知ってもらって、食べてもらいたいです

高橋 身依さん (農業、浜中地区)

同じ世代の仲間づくりや交流ができればいいなと思います。横浜の方々と交流会を通して、食べる人の姿がより見えるようになりました。異業種の方々からは消費者目線で色々なアドバイスをもらったり、励ましてもらったり。行動力も凄いですよ。野菜の定期便は、クチコミのおかげもあってニーズはあるので、市の全域からメンバーを増やして充実できたらいいですね。あと、いつかふるさと納税の返礼品になったらいいなと考えています。

これからもおいしい野菜を届けてほしいです

佐藤 浩子さん (グラフィックデザイナー、市内在住)



入塾したきっかけは、中原先生から声をかけてもらったことです。私自身農業に興味があったのと、パッケージデザインをしてみたいと思っていました。印象深いのは横浜での交流会です。酒田には新鮮で安心な野菜が当たり前にあるんだと実感しました。これは、とても幸せなことですよ。また、色んな人と出会ってお互いに刺激し合い、相乗効果も出ています。最近、イチゴ農家さんのロゴマークをデザインさせていただきました。これからも農産物のおいしさを伝えるお手伝いをしていきたいですね。

座長の中原浩子東北公益文科大学
特任講師の指導を受けながら、講

幅広い活動

成されています。開塾式では、非農家の塾生から「農家レストランを開きたい」「農業とリハビリを組み合わせた仕事を作りたい」など、さまざまな思いが発表され、業種の垣根を越えた交流による相乗効果が期待されています。



「すくすくファーマーズマーケット」と銘打っての直販

義やワークショップだけでなく、昨年10月31日～11月1日に本市で

ほかに、異業種交流の成果として、非農家の塾生から接客・販売方法だけでなく、農業者にはないアイデアの提案や、チラシのデザインなどPRの手法を学んだり、さまざまなつながりによる酒田産農産物のファン獲得など、地産地消の拡大につなげることができました。



横浜市での交流イベントの様子

開催された全国ねぎサミットへの出店のほか、横浜市での交流イベントや子を持つ保護者との意見交換などを行いました。横浜市での交流をきっかけに、個人向けの野菜の定期便発送が実現したことに加え、横浜市から酒田寒鱈まつりへの来酒などもあり、つながりがどんどん広がっています。

そしてこれから

今年度は、塾生による情報発信のほか、横浜市 of 消費者と構築したネットワークをより深め、食育・地産地消の推進など、塾生のアイデアによる実践型の活動を進めていきます。塾生の主体的な活動にステップアップするため、今年5月には運営協議会が設立されました。東北公益文科大学の学生と連携し、料理や加工品の開発などにも取り組む予定です。今年も生き生きと活動している彼女たちから目が離せませんね。



女流塾に関するお問い合わせは、酒田市農政課総合農政係まで ☎2615792

耕作放棄地を活用し地域を元気に!!

耕作放棄地再生利用緊急対策交付金を活用してください

荒廃した耕作放棄地を引き受けて農地を再生する農業者、農業者等の組織する団体等が行う再生作業や土づくり、作付け、加工・販売の試行、必要な施設の整備等の取り組みを総合的に支援します。

1. 支援内容

作業	支援内容	摘要
(1) 再生作業（障害物除去等および土づくり）を一体的に支援		
①定額支援	5万円/10㍍ ²	中心経営体に集約化する場合は6万円/10㍍ ²
②定率支援	総事業費の1/2以内	重機を用いて行う場合
(2) 土づくり	2.5万円/10㍍ ²	障害物除去、深耕、整地がなされた農地における土壌改良
(3) 営農定着	2.5万円/10㍍ ²	再生農地への作物作付け
(4) 施設等補完整備	1/2以内	農道、農業用機械・施設等の整備
(5) 実証ほ場の設置・運営、試験販売等	定額	

2. 要件

- (1) 農地の賃貸借等契約により、土地所有者に代わり再生作業を行い、5年間以上耕作することが見込まれること。
- (2) 再生作業を行うに当たって、再生費用が10万円/10㍍²以上必要とする耕作放棄地であること。
- (3) 荒廃農地調査で「A分類」と判定され、かつ農振農用区域内の農地であること。

※「A分類」とは、荒廃農地のうち、抜根、整地、区画整理、客土等で再生することにより、通常の農作業による耕作が可能となると見込まれる農地です。

3. 取組例

- ① 1年目 **再生作業** + **土づくり** → **作物作付け**
- ② 1年目 **再生作業**
- 2年目 **土づくり** → **作物作付け**

○お問い合わせ

酒田市地域耕作放棄地対策協議会
(農業委員会事務局内)

Tel:26-5767

農地の適切な管理を

農業委員会では、優良農地の確保と有効利用に向けた遊休農地の発生防止と解消、意欲ある多様な農業者への農地集積を図るため、年間を通じて利用状況調査を行っています。また7月から8月を強化月間に設定し、遊休農地や違反転用等の早期発見・是正に取り組んでいます。

農地は、国民に食料を供給するための基礎的な生産要素であり、農業者にとっても重要な生産基盤ですが、一旦荒れてしまうと、復旧には多大な労力と費用が必要になります。

農地パトロール

7月上旬から8月末日まで、農地パトロールを行います。調査内容は、①遊休農地の把握、②違反転用の把握、③農地の一時転用（山砂採取）許可農地の現地確認、④転用許可農地の確認（完了期限を過ぎている農地で報告書の提出がないもの）、⑤一般法人（農地所有適格法人以外）の解約条件付農地の現地確認です。

利用意向調査

農地パトロールによって確認した遊休農地について、農地所有者等に今後の管理の意向を調査し、農地中間管理機構との協議など遊休農地解消へ向けた活動に役立てます。

地域の優良な農地を守り、大切な資源を次世代に引き継ぐため、みなさんのご理解とご協力をお願いします。



農業委員会

活動レポート

農業委員春季研修

あつみ農地保全組合を視察

6月13日、

庄内たがわ農協温海支店にて、休耕田（耕作放棄地）受託を目的に設立された（株）あつみ農地保全



ワラビが作付けされているほ場を視察

組合の視察研修を行いました。

受け手のいない農地の受託による「地域農業者の雇用、農地の保全、地元への現金収入をもたらし、セーフティネット。一石三鳥」のビジネス。ほ場実践のブロッコリー、ワラビポッド苗作付けなどの現地説明を受けました。

温海地域は89%が山林で、農地はわずか6・4%。耕作放棄地対策にいち早く動き出している地域活動方法は素晴らしく、今後の方向性のあり方を考えさせられました。（池田良之委員）



（一社）家の光協会 岩澤編集長の講義

会報委員会視察研修

6月23日から24日にかけて、会報委員会視察研修が東京で行われました。最初に訪ねた全国農業新聞では、紙面構成や写真の撮り方などを具体的に教えてもらい大変参考になりました。2日目の（一社）家の光協会では、編集ポイントと取材テクニクを伺ったほか、編集部も見学させていただきました。スタッフが生き生きと仕事をしている様子を見ることができました。特に子ども向け雑誌は食育活動に大いに参考になりそうです。（大場重樹委員）

農業委員自主研修

北海道十勝を視察研修

6月28日～30日、農業委員3名が北海道十勝管内で自主研修を行いました。

最初に、帯広市産業連携室を訪問。「フードバレーとかち」について研修しました。「十勝の強みである食と農林漁業を中心に地域を豊かにしていくこと」を旗印に、1市18町村からなる十勝あげでの取り組みでした。

また鹿追町では、18才以上の単



稲垣事務局長代理の講演

酒田市農業者年金協会研修会

7月21日、酒田市農業者年金協会研修会が酒田市総合文化センターで開催されました。総会に引き続き行われたこの研修会には、全国農業会議所から稲垣照哉事務局長代理を講師に迎え、農業者年金と昨今の農業情勢をテーマに講演をいただきました。

講演では、農業者年金の加入推進における課題と、それに対する決め手や心得などを丁寧に説明いただいたほか、昨今の農業情勢では、中央のリアルタイムの状況を教えていただきました。（佐藤好博委員）

身女性を対象とした、農業研修受入事業を研修することができました。7か月から1年間研修を受けてもらう事業で、昨年は12名中4名が、研修終了後鹿追町に残り活躍中とのことでした。

好天にも恵まれ、雄大な風景を織りなす十勝農業に触れることができた研修でした。

（後藤保喜委員）



フードバレーとかちでの研修

キラリな女性

かがやく
女性農業者

日記を書きながら

北沢 美幸
小松

私が就農したのは、2人の子どもが保育園に入園した10年ほど前です。その頃は保育園に行っている間に手伝う程度でしたが、その後3人目を出産し4年くらい育児に専念していたので、本格的に仕事をやり始めてからは6年になります。私の実家も農家なのですが、ほとんど手伝ったこともなかったので、私が「農業をやる」と言ったときは、母に驚かれました。

我が家では、葉タバコ、米、啓翁桜を栽培しています。特に葉タバコの収穫は真夏の作業なので、暑さに慣れるのが大変でした。農業は決まった休みもなく、厳しい自然相手の大変な仕事だということが実際に携わってみて分かりま

した。でも友人から「お米おいしかったよ」と言われると、また頑張ろうという励みになります。

私は就農してから毎日日記を書いています。日記といってもその日にした作業内容を書くだけのメモ書きのようなものなのですが。農作業は1年に1回しかやらない作業が多く、そのときはしつかり覚えたりつもりでも1年経つとすっかり忘れていた……。なんてこともたくさんあったので、細かくメモするようにしています。

とは言っても、まだまだ分からないことが多いので、子育ても頑張りがつ農作業も頑張っているように思っています。



葉タバコの育成状況を確認しています

かせ

～若手農業者リレーエッセー～



私の家は代々農業を営んでおりますが、私は専業農家ではありません。日中は働きに出ています。知識や経験といったノウハウはまだ未熟なので、周りの方々からサポートしてもらったり、助けてもらっています。

農業の今後がよく話題になっていて昨今ですが、今の状況の中で「自分は外に働きに出ているので、自分の代になつたらどうなるのだろうか」と不安になることがあります。

時代が時代ですので、同じように考えている人が数多くいるのではないしょうか？

ですがこれだけは断言できま

農業と向き合っていく

安田 守屋 仁志

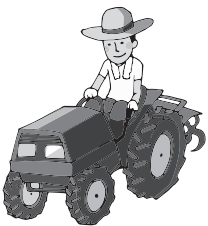
す。農業は、生きていく上で必要な食の原点なのです。自分が作ったものを自分で食べるなんて最高の贅沢ですよ！

そして、農業をやっているにもまして良かったと思えることは、農作業中ふと鳥海山を見たときに「あー、だいたい雪がなくなつたなあ」とか、空を見上げたときに「一気に秋の空になったな」など、自然というものを身体中に浴びたり、パワーをもらっていると感じられることです。農業をやれているありがたさ。農業とは、生きる

ことそのものだと思います。だからこそ、毎日感謝してご飯をいただきます。

「食べる」ということは、「生きる」ということ。

その人間の根底の部分に携われる農業と、これからも向き合っていきたいと思っています。



農業委員がおじゃましてお聞きしました!

農業
一筋

本楯地区

進藤 勝雄
とよ美 ご夫妻



ネギを中心に営農されている勝雄さん(71歳)、とよ美さん(67歳)ご夫妻。

農協職員だった勝雄さんは、定年を機に本格的に農業に取り組み始めました。始めてからというものの「周りで作る人がいなくなってきた」と、受けてきた農地も徐々に増え、今では約60アほどに。最初は失敗ばかりで「黄色い除草剤がいいと聞いて、袋が黄色の除草剤を買ってきて撒いたら、次の日もなくなっていた」と笑って振り返りますが、真摯な取り組みが認められ、3年前の総代会では表彰を受けています。去年からはねぎ部会長にも就任し、定年してか



(飯塚将人委員)

らより忙しくなってきたとのこと。そんな勝雄さんは趣味の人でもあり、その代表がカラオケ。本楯カラオケ愛好会の会長として、それは熱心に活動しているそうで、以前農協のカラオケ大会で優勝したほどの美声の持ち主です。また、先日お子さんからタブレットを買ってもらい、お孫さんと無料通話ができるようになったと、お二人そろって目を細めます。

全国的な需要や手間を考え、春ネギにもう少し力を入れていきたいと先を見据える勝雄さんと、しっかりと支えるとよ美さん。いつまでも仲睦まじくいてください。

短
信

《農業者の海外研修に補助します》

- ◇対象者／本市在住のおおむね40歳以下の新規就農者、農業後継者、認定農業者、認定新規就農者
- ◇補助対象／国・県、農協などが主催、または市が認める農業に関する海外研修
- ◇補助金額／海外研修にかかる経費の2分の1以内で上限30万円
- ◇申し込み／酒田市農政課総合農政係へ
TEL26-5792

こんにちは!農業委員会です

農地の集積・集約化を進める際のマッチングや地区で抱えている課題を話し合うため、農地集積センター地区会議の開催時にお伺いします。

平成28年度の開催予定地区は次のとおりです。

- ◇広野地区 ◇東平田地区 ◇西荒瀬地区
- ◇袖浦地区 ◇平田地区

※3か年で16地区を回る予定です。

農業者年金に加入しましょう

老後の生活をしっかりサポートします。
農業に従事する方なら、広く加入いただけます。

*** 農業者年金のメリット ***

- ① 少子・高齢化時代に強い積み立て方式
- ② 保険料の額は自由に決められます
- ③ 終身年金で80歳までの保証付き
- ④ 保険料は全額社会保険料控除
- ⑤ 保険料に国庫補助も(要件があります)

全国農業 新聞

農家の経営とくらしに役立つ情報を
農業者の視点でお届けします

●発行日 毎週金曜日

●購読料 1か月 700円

※お申し込みは農業委員会へ

農事組合法人「なごみふあーむ」

〔新堀地区〕

代表理事 齋藤 淳一

○名前の由来を教えてください

設立準備段階で組合員予定者に公募した中から、組合員全員
の力を合わせることに、そして調
和させること、という意味を含
めて「なごみふあーむ」と決定

しました。

○経営の内容は

役員6名、組合員23名、
経営面積111畝
主な農産物 米、大豆

○設立のきっかけは何ですか

やはり組合員の高齢化と、法
人化に対するメリットが大きく
なったことです。

若い世代が農業ができるよう
土台のひとつとして設立しまし
た。

○これからの抱負を教えてください

現在出発したばかりです。水
稲、大豆の作業効率化などで大
変ですが、今後組合員の意識改
革を進めつつ、所得増を目指
し、販売できる農産物の増を考
えながら、若い世代に胸を張っ
て引き継げるよう頑張ろうと思
います。

なんの野菜の花？



ヒント

- ◇カボチャの一種で、北米南部・メキシコが原産。
- ◇果実は形がキュウリに似ており、果皮は緑色または黄色。
- ◇若い果実をフライや炒め物などにする。

答え・ズッキーニ



編集後記

今年も農業委員会では、農地
利用状況調査(農地パトロール)
を実施します。これは遊休農地
の発生や農地転用の状況を、文
字どおり調査するものです。

ここ数年、特に中山間地域に
おいて遊休農地が散見されます。
その原因は農業者の高齢化と担
い手不足。加えて農産物価格の
低迷も要因の一つかと思えます。
農林水産省の調査によると、平
成26年、全国で27・6万畝の耕
作放棄地があるとのこと。東京
都の1・3倍に相当する面積で
す。

「ふるさとの山に向ひて
言ふことなし

ふるさとの山は
ありがたきかな」

石川啄木の有名な歌です。岩手
山に向かって詠んだのでしょ
うが、その裾野には北上の豊かな
田園が広がっています。本紙が
お手元に届く頃は、帰省される
方も多いはず。いつまでも、ふ
るさとは美しい田園であり続け
たいものです。

(ごとう)